

# 水晶発生気

(電子気功装置:ドラゴン・フォース 2号)

渡辺 満 (静岡県)

§0 はじめに

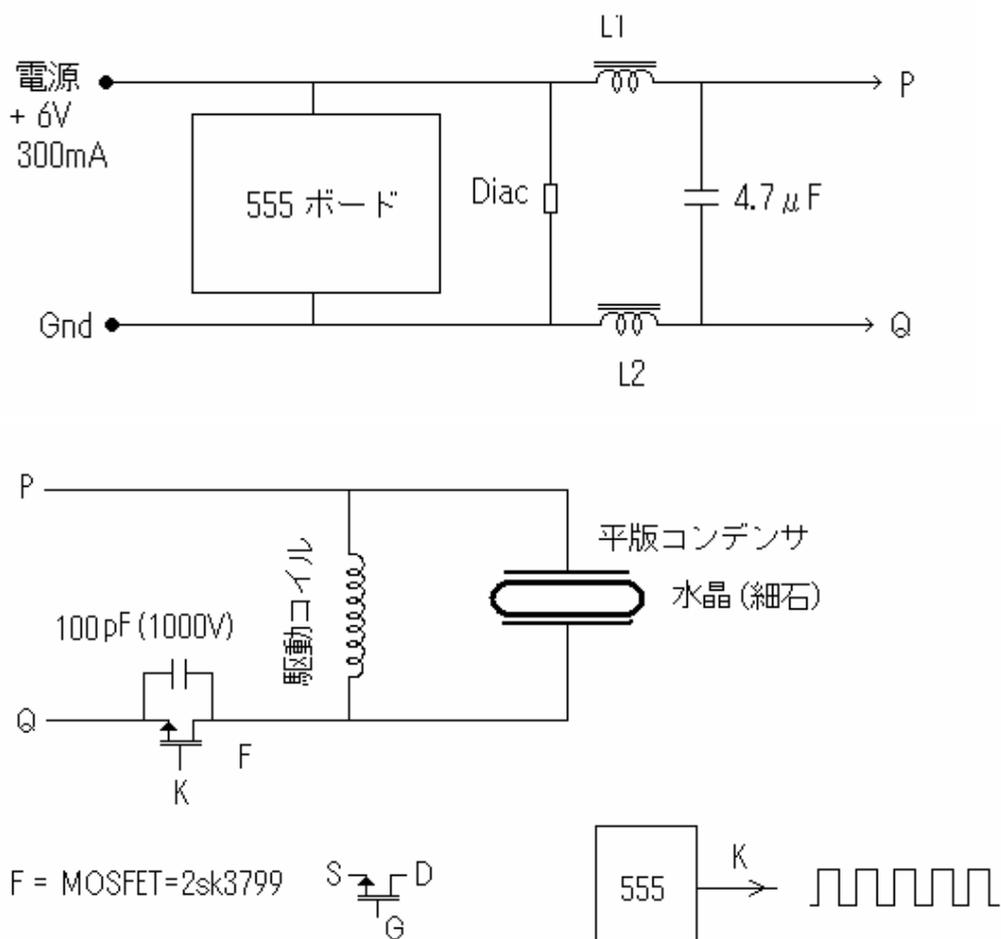
前回は、フリーエネルギー装置:アイコイル超発電.pdf から、  
気の発生装置:アイコイル発生気.pdf を作った。(これを 1号とする)

今回は・・・

一方で直接、水晶を平板コンデンサではさんだら、  
どうだろうと思い、簡単な実験を行ったところ、  
意外にも良い結果が得られた。  
そこで、これをしっかりとした装置にした。

簡単に言えば、水晶を平板コンデンサではさんで、  
そこへ変動する電圧をかけると、  
水晶から、よい気が出るらしいことがわかった。

## §1 回路



電源は、ACアダプター(DC6V,300mA)。

駆動コイルを、555 の方形波でスイッチングする。

これによって、駆動コイルには、電磁誘導による起電力が発生し、平板コンデンサに電圧が加わる。

コイル L1,L2 は、市販のトロイダル・コイル(径 3cm ぐらい)を用いた。

このインダクタンスは、大きい方がよい。

L1,L2 は、駆動コイル側からくる可能性のある鋭いノイズから、555 を保護する役割もしている。

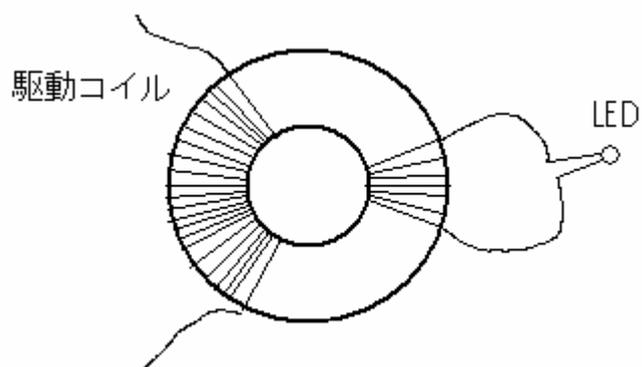
Diac は、背の高いノイズを、32V に切る効果がある。

MOSFET の上のコンデンサ 100pF は、K の OFF 時に、

駆動コイルから出る高圧の起電力を吸収し、

MOSFET を保護する。

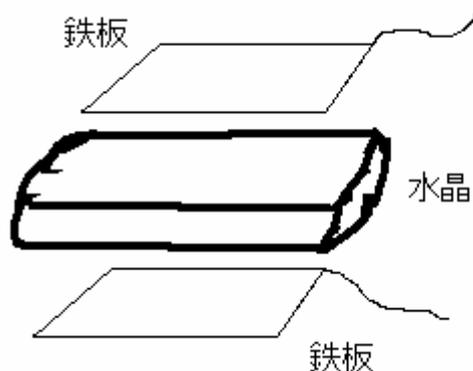
● 駆動コイル



トロイダル・コア(FT240)を 2 枚重ね、  
その上に、皮膜銅線か被覆銅線を 50~100 回巻き、  
これを駆動コイルとする。

もう一方の側に、10 回ぐらい巻き、そこへ LED を付ける。  
これは、動作確認用である。

## §2 平板コンデンサと水晶



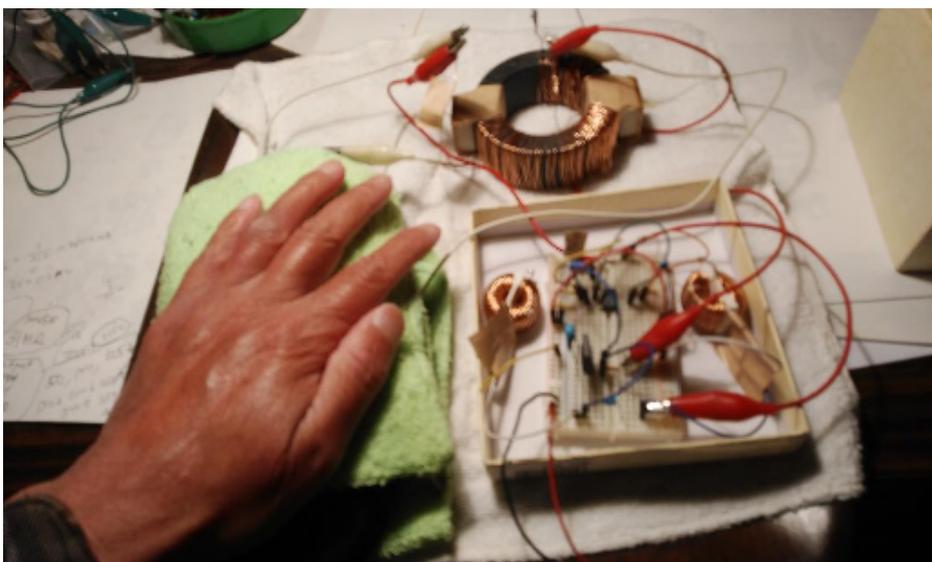
洋菓子や乾燥海苔などの入っていた空き缶などを切って、横 80mm、縦 130mm の長方形の薄い鉄板（ブリキ板）を 2 枚作る。  
この隅に導線をハンダ付けして、駆動コイルに結線する。

水晶の細石 1kg を、靴下などの布製の袋につめ、この 2 枚の鉄板でサンドイッチにする。

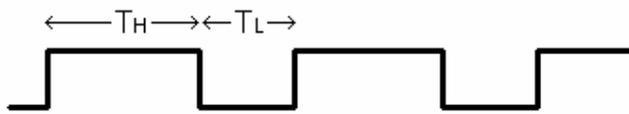
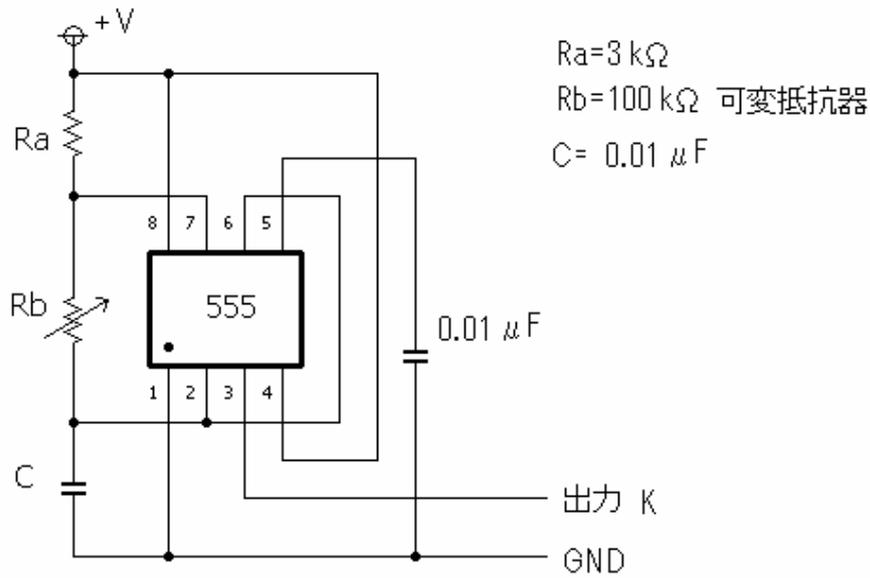
この上にタオルなどを被せ、その上に手を乗せて使用する。  
これを実際に、何日か使用してみると、  
どうも 1 号機「アイコイル発生気」よりも、体によいように感じる。  
感じとして、こちらの方が大木の気に近いようだ。  
（個人差があるので、単純ではないが・・・）

### ● 周波数の合わせ方

555 の周波数を調整して、LED が最も明るく光るところへ合わせる。



### §3 タイマーIC LMC555



$$T_H = 0.693 \cdot (R_a + R_b) \cdot C$$

$$T_L = 0.693 \cdot R_b \cdot C$$

$$\text{周波数 } f = 1.44 / (R_a + 2R_b) \cdot C$$

Rb を回して、周波数を変える。

#### §4 物理学的原理

水晶袋をはさんだ2枚の鉄板は、1種のコンデンサとして機能し、水晶内には、弱い電場ができる。

この電場によって、水晶内には、静電ポテンシャルの場ができる。

これを電磁ポテンシャル  $A_i$  によって表現すれば、

今の場合、ベクトルポテンシャルについては、

$$A_1 = A_2 = A_3 = 0 \quad \text{であるから、}$$

静電ポテンシャル  $A_4$  のみが、値を有している。

僕の時空理論では、電磁ポテンシャル  $A_i$  を、

物体の世界線(4次元の路)に沿って、線積分した値、

$$\zeta = \int_p^q A_i dx^i \quad (i=1,2,3,4)$$

を時空ポテンシャルと呼んでいる。

時空理論では、物体の質量は、

その物体の時空ポテンシャルの値によって決まる。

今の場合、水晶内の時空ポテンシャルは、

$$\zeta = \int_p^q A_4 dx^4 \quad \text{である。}$$

一昔前なら、「物体の質量が変化する」などと言ったら、

トンデモだと思われただろうが、

最近では、それが実際に観測されるらしく、

「重い電子」をネット上で検索すると、京都大学の研究などが出てくる。

たぶん、質量変化のメカニズムは、まだ未解明だろうが、

時空理論なら、この現象を容易に説明できる。

#### ●ヒッグス粒子

さて、一方で、素粒子論を引用するならば、

素粒子論では、物体に質量を与えるのは、“ヒッグス粒子”であるという。

また、ヒッグス粒子は、スカラー場であるという。

すでに述べたように、時空理論では、物体に質量を与えるのは、

時空ポテンシャルであり、これもスカラー場(実数)である。

すると、

時空ポテンシャル=ヒッグス粒子 か？  
ということになる。

今の場合、平板コンデンサにはさまれた、  
水晶内の時空ポテンシャルは周期的に変動し、  
それに伴って、水晶の質量変化が起きるので、  
辺りには、ヒッグス粒子の流れが生じる。  
これを、“気の流れ”と、理解することができる。

気=ヒッグス粒子  
となるだろう。

---

2020年5月発行

著者:渡辺 満, 発行者:渡辺 満

Copyright 渡辺 満 2020年